

2024自然保護指導員研修会および 公開講演会報告

2025年1月26日13時30分より、JMSCA主催、東京都山岳連盟（以下、都岳連）自然保護委員会主管による「2024年度自然保護指導員研修会および公開講演会」を国立オリンピック記念青少年総合センター会議室で開催した。14回を数えるこの研修会は、既に自然保護指導員として活躍している方、これから自然保護指導員を志す方に向けて、自然保護指導員として活動するにあたっての基礎的知識や自然への一層の理解を深めるための研鑽の機会を提供するものである。また、都岳連傘下のスポーツ指導者に向けて、山岳スポーツのフィールドである自然環境への知識を得て頂くために、都岳連指導委員会の協力も得て、スポーツ指導者の義務研修の一環としても実施、併せて「公開講演会」と銘打ち山岳環境保護・保全に関心のある市民の参加も可としている。今回は、本年4月からの自然保護指導員規程改正の眼目の一つ、資格取得・更新に必須とした「講習会」に岳連・協会の枠を越えて参加できるようにした初の試みとして、都岳連の協力を得て実施、全国から会場56名、オンライン26名の計82名が参加された。

冒頭、都岳連廣川会長より主管のご挨拶を頂き、続いて小高より「自然保護とは生物の多様性を守ること」であり、「持続可能な利用」を目指す『保護』と『完全な保護』強調する『保全』それぞれのアプローチが、環境や生物多様性を維持するために必要であるとの視点から『山岳の自然保護・保全』についてお話し、昨今の山岳環境を巡る諸問題にも言及、更に『自然保護指導員』制度に関しては、指導員規程と細則の主要な改正点について触れたが説明は全く足らず、今後全国の自然保護委員会及び指導員に向けて様々な方法で説明していくことを約して締め括った。

続いて小島副委員長より、JMSCAで進めている「JMSCAフレンド」への自然保護指導員資格登録について、自身のマイページを例にとって今後備えられる便利な機能と現状についての説明、全国の指導員の初期登録を進めるためにデータ収集への協力を改めてお願い



した。

続いて、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県（報告書のみ）、東京都の関東ブロックの自然保護委員会からこの1年の具体的な活動報告を頂いた。各委員会とも少予算、担い手の高齢化等々の問題を抱えながらも地道にSDGsな活動を続けている。新たな担い手として新規の自然保護指導員に大いに期待が寄せられる。

休憩を挟んで、公園計画と観光地計画を専門領域とし富士山、尾瀬など世界遺産、国立公園等のフィールドにおいて質の高い自然体験を提供する空間計画手法について研究を進めていらっしゃる東京大学助教山本清龍先生より、『山岳のオーバーツーリズム～資源管理と来訪者管理に登山者はどう貢献できるのか～』との基調講演を頂いた。オーバーツーリズムが社会問題化されて久しい。週末や例えば花の時期に過剰利用され、混雑や渋滞を招くリソースを、通年・平日への分散化や他の目的や体験にどう利用させていくかの調整手法、登山者数や公園利用者数の調整に向けて行動規制する根拠法や種々の社会実験についてお話を頂いた。解決策の一つとして例示頂いた、ボランティア等の労働力の提供、入山料や寄附等の経済的貢献等の相応の負担を登山者、公園利用者に課す管理手法に大いに期待したいと思う。

講演後、指導員登録・更新のための事務連絡、主管の猪狩都岳連自然保護委員長より閉会挨拶があり、研修会は予定通り16時40分閉会した。

（自然保護委員長 小高令子）